



農業委員会だより

■発行人 飯山市農業委員長 松永晋一
■編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市
農業委員会事務局
飯山市役所農林課内
電話：62-3111
(内線261)
FAX：62-6221

19.1

No.234

年頭のご挨拶



農業委員長
松永 晋一

明けましておめでとうございませう。皆さまにはお健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年の水稲では活着はほぼ順調でしたが、6月以降は異常な高温が続き、一部水不足の水田も発生する状況下で出穂は大幅に早くなりました。出穂期以降は二転し長雨による日照不足により未熟粒が多発し、反収は大幅に低下しました。10月に入ると二転晴天に転じ、12月になっても高温が続き、初雪も遅くなり雪不足による地域経済への影響も懸念されます。異常気象が常態化しています。昨年も気象に大きく影響をされた年となりました。

環太平洋連携協定（TPP）は米国を除く11カ国で合意がされ、12月30日より発効し、日本とEUとの経済連携協定（EPA）は2月1日発効となりました。両協定での関税削減・撤廃などが進む中で、米国はさらに自国の利益をむき出しにしたEPAの締結を迫る動きが加速しています。TPPは多国間による相互の利益と引き換えに強い痛みを受け入れ、締結された協定であり、2国間でのEPAは絶対認めない毅然とした交渉がなされるかしっかりと監視し、農業の展望が図れるよう、また、国の政策に反映されるよう引き続き運動を進めてまいります。

8月より改正農業委員会法の規定に基づき、農地利用最適化推進委員7名を置く農業委員会が発足しました。

た。農家の高齢化・担い手が減少する中で、優良農地の確保と効率的な利用の促進に取り組み、担い手への農地の集積・集約化等、農地の活用を促進することが法令化され最も重要な業務となりました。これらを確実に実行するには、農地の貸し手と担い手を明確にした「人・農地プラン」を作成し、地域の将来像を地域で話し合うことがたいへん重要になります。農業委員会では、関係機関と連携して「人・農地プラン」の作成と農地中間管理事業を活用し、農地集積・集約に積極的に取り組みます。

本年も、農政諸課題について、農業委員会組織を挙げて真に農業農村の発展にむかいます。運動を継続してまいりますので、各位のご指導・協力をお願いし、年頭のご挨拶といたします。

小布施町6次産業センター視察



11月下旬に栗と北斎と花の街小布施の小布施町振興公社が経営する6次産業センターへ視察に行きました。リンゴの収穫時期と重なり、入口にはリンゴとリンゴジュースのケースが沢山積み上げられていました。このセンターを経営する小布施町振興公社は平成2年に設立され、公益財団法人として町の出資でフローラルガーデンを造り指定管理事業を行っていました。平成18年にレストランをオープンし、平成19年には6次産業センターの指定管理を町から受け、平成24年に公益財団法人から一般財団法人に移行し、民間企業として経営するようになつたそうです。

小布施町は、かつて繰り返された強酸性の松川の氾濫のため酸性土壌となり、米が作れず栗を作つたと言われています。このため、果

樹が約80%・栗が約3%ですが、狭い地域なので少量多品種を栽培し、量より質を高めて特徴を出すことが必要であり、今はリンゴやブドウ、特にシャインマスカットの農家さんが増えていると伺います。

農業の複合経営をする、作つたものをいかにお客様に届けるのかを農家さんがこのセンターを使って実践し、農家さんの自立を促す事を目指しています。秋のトップシーズンには、人通りが多

がんばっています！

- No. 41 -



霜田さんご家族（木島：其綿区）

「農業研修生」

みなさんこんにちは。昨年4月から飯山市農業研修センターで農業研修生をしている霜田宏太郎です。

一昨年10月に生まれ故郷の飯山に帰ってまいりました。僕はもともと飲食業とメインで塗装業を営んでいたのですが、農業とはまったくの無縁でした。なぜ農業をやるうと思ったのかというと、せっかくなので飯山に帰ってきたのだから飯山でできることをしたかったからです。帰ってきたてたくさんの人に仕事の話聞いています。近所でIターン就農された岡田さん夫婦の話聞いて『これだ』と思いました。とて

霜田 宏太郎

もやりがいがあった、これから先のある飯山らしい仕事だと思いいじめました。市役所にすぐに話を聞きに行き、普及センターの方と話をし、面接をして4月から研修生にしてくださいました。まったくの素人だったので、研修先のアグリみゆきではいちから教えていただきました。アスパラをはじめ10種類ほどの作物について教わりました。播種から育苗、定植、防除、管理、収穫、出荷すべてのことが初めてで、名実ともに学生に戻った気分でした。初めての言葉、道具の名前、まだまだ知らないことだらけで

す。毎日畑に出て、収穫があれば天気も関係なし。本当に大変な仕事だと思いましたが、不思議と毎日楽しく過ごしています。まだ研修の段階なので先は分かりませんが、こんな楽しい毎日を送れるなんて最高の仕事だと思えます。それもたかさんのまわりの方のおかげでもあったと思います。アグリみゆきのみなさん、JAの方々、普及センターの方、市役所の方、農家の先輩方、本当にありがとうございます。そしてこれからもうご指導ご鞭撻よろしくお願ひします。体が動く限りあと50年は頑張りたいと思っています。一生できる仕事も見つけたいです。



春から本格的に栽培を始める「コールラビ」という地中海北部が原産地の野菜

い所に農家さんがテントで個人販売を積極的に行っています。ブランド戦略として、既にあるブランドの品質を極め、誰も取り組んでいないことにいち早く取り組む。社としては農家さんの意識とブランドの価値、小布施産の価値を高め、地域の6次産業のパイプ役としてサポートしていきたいと力強くおっしゃっていました。しかし、近年、食品衛生法等の基準が厳しくなつてきており、安心、安全への責任が非常に大きくなつてきているので、水平分業の時代

に戻るのではないかと。飯山は、雪解け水によるミネラル豊富な土壌と昼夜寒暖の温度差により、米・アスパラなど高い評価を得ており、キノコや花の栽培も盛んですが、担い手不足等の課題も多くあります。小布施町のような農家さんへのサポートや飯山産の価値を高める取り組みを実践し、強く優しく面白い農業にするにはどうしたら良いのか、これからも視野を広げ模索していくことが必要と強く思いました。

情報委員長 酒井 智恵子

あしあと 11.12月の活動記録

- 11月9日 農業委員会役員会
- 18日 飯山市農業振興講演会
- 28日 11月農業委員会総会
- // 管内視察（小布施町）
- 12月10日 農業委員会役員会
- 18日 県農村女性フェスティバル（長野市）
- 26日 12月農業委員会総会